

調査の概要

- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：平成 23 年 1 月 1 日午前零時現在
- 3 調査方法

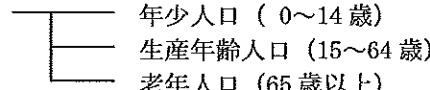
この調査は、平成 22 年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法、外国人登録法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年 1 月 1 日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

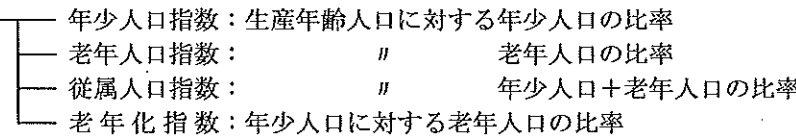
4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横浜・川崎	横浜市、川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
足 柄 上	南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町
西 湘	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

- 1 年 齢：調査日前日による満年齢

- 2 年齢（3区分）別人口 

- 3 年齢構造指数 

- 4 性 比：女性100人に対する男性の数

- 5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢（各歳）} \times \text{各歳別人口}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{（満年齢後の経過月数調整値）}$$

（小数点第3位以下切り捨て）

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、昭和 51 年 1 月 1 日現在調査（昭和 50 年 10 月 1 日現在実施の国勢調査による年齢別人口を基礎として推計）から本県が毎年実施しているものであり、それ以前の年齢別人口統計は大正 9 年から総務省が 5 年ごとに実施している国勢調査の統計を使用しています。
- 2 年齢不詳者は、平成 22 年国勢調査時点（平成 22 年 10 月 1 日現在）の数値で、国勢調査の中間年次（平成 23 年～27 年）はその数値を使用します。
- 3 全国の数値は、総務省統計局発行「人口推計月報」による平成 23 年 1 月 1 日現在推計人口（確定値）を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。
- 6 総人口には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

- (1) 平成23年1月1日現在の神奈川県のご総人口は、905万1028人（男性454万4151人、女性450万6877人）です。【表1, 3, 4参照】
- (2) 年齢（3区分）別人口は、年少人口（0～14歳）118万7930人、生産年齢人口（15～64歳）598万6215人、老年人口（65歳以上）182万4655人となり、老年人口が年少人口を63万6725人上回っています。【図1, 表1, 11参照】
- (3) 平成22年1月1日現在の調査（以下「前年調査」という。）に比べると、総人口は4万2896人増加しており、年少人口は1万155人減少、生産年齢人口は475人減少し、老年人口は3万9861人増加となっています。【図2, 表1, 6, 11参照】
- (4) 年齢（3区分）別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.2ポイント低下し13.2%（全国平均13.2%）、生産年齢人口は0.2ポイント低下し66.5%（同63.6%）、老年人口は0.4ポイント上昇し20.3%（同23.1%）となっていますが、それでも全国平均と比べると、生産年齢人口では2.9ポイント高く、老年人口では2.8ポイント低くなっています。【図3, 表1, 6参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は19.8、老年人口指数は30.5となっており、この2つの指数を合わせた従属人口指数は50.3で、これによると、2.0人の現役で1人の年少者又は高齢者を支えていることとなります。また、老年化指数は153.6で、年少者1人に対し高齢者1.5人の割合となっています。なお、これらの値はすべて全国平均（年少人口指数20.8、老年人口指数36.3、従属人口指数57.1、老年化指数174.5）より低くなっています。【図4, 表2参照】

図1

人口ピラミッド（年齢（各歳）、男女別人口）

平成23年1月1日現在

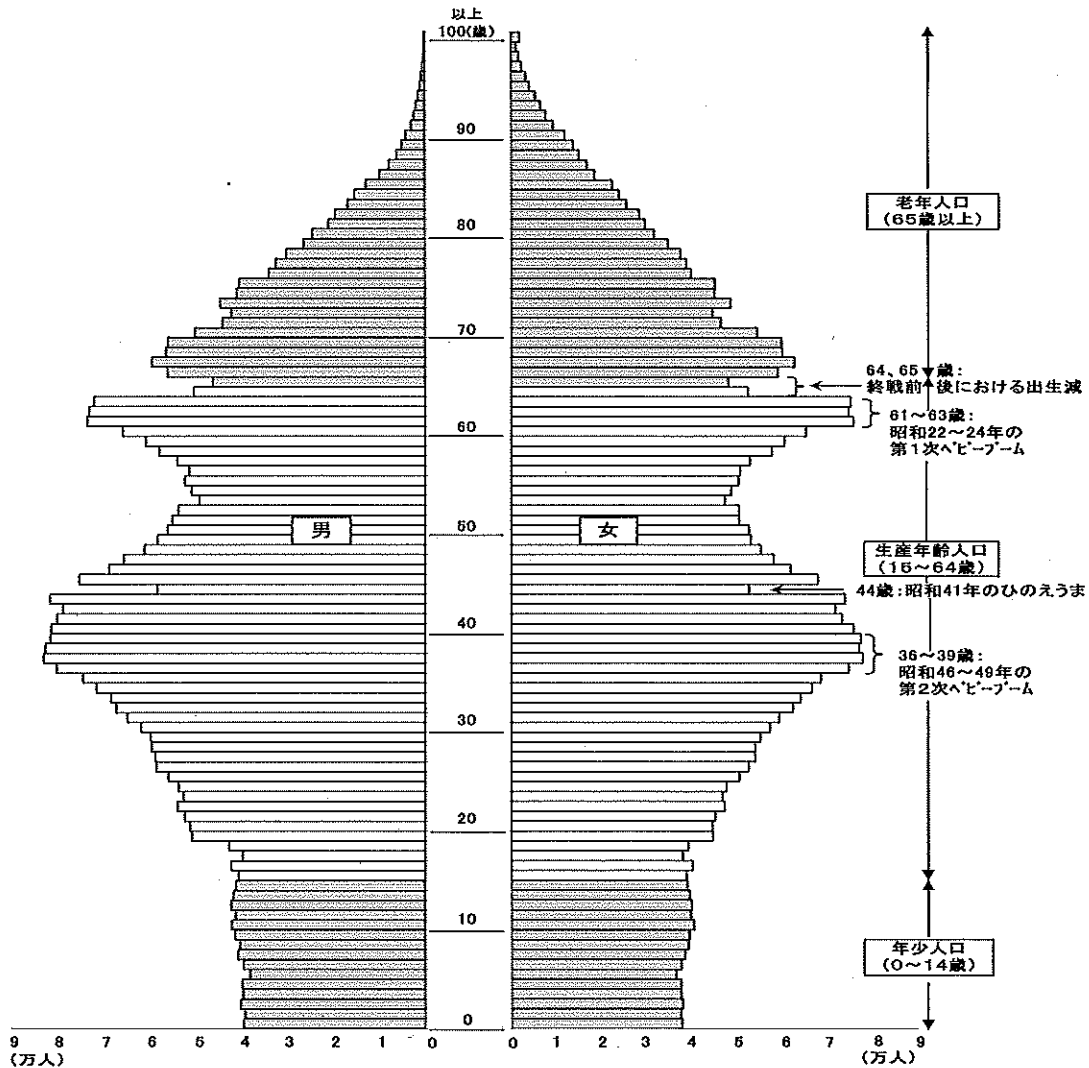


図2 年齢（3区分）別人口の推移

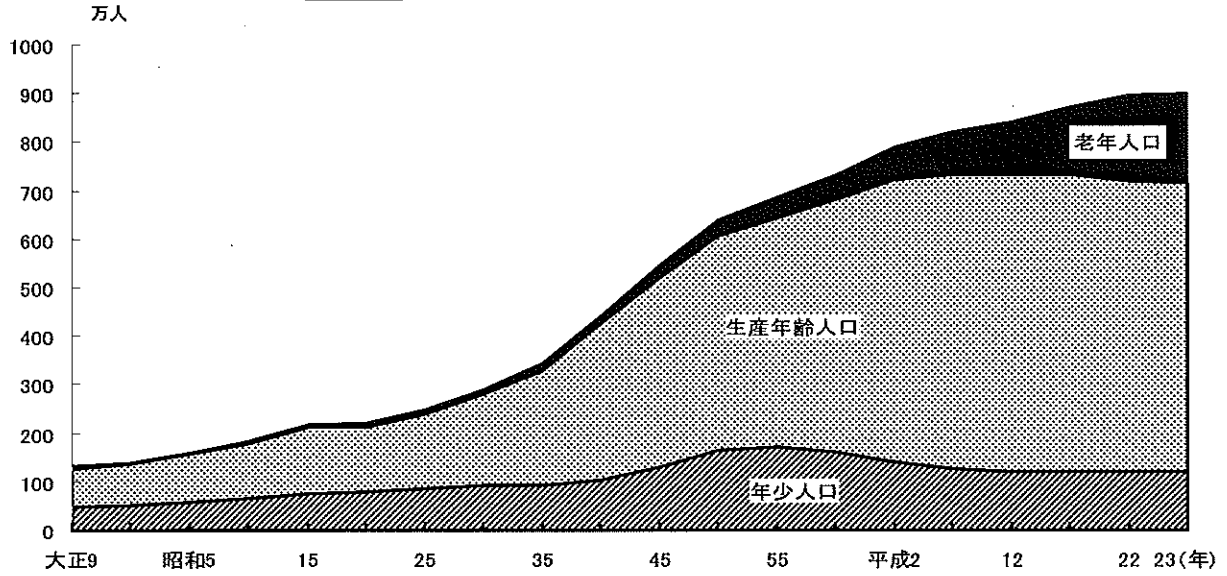
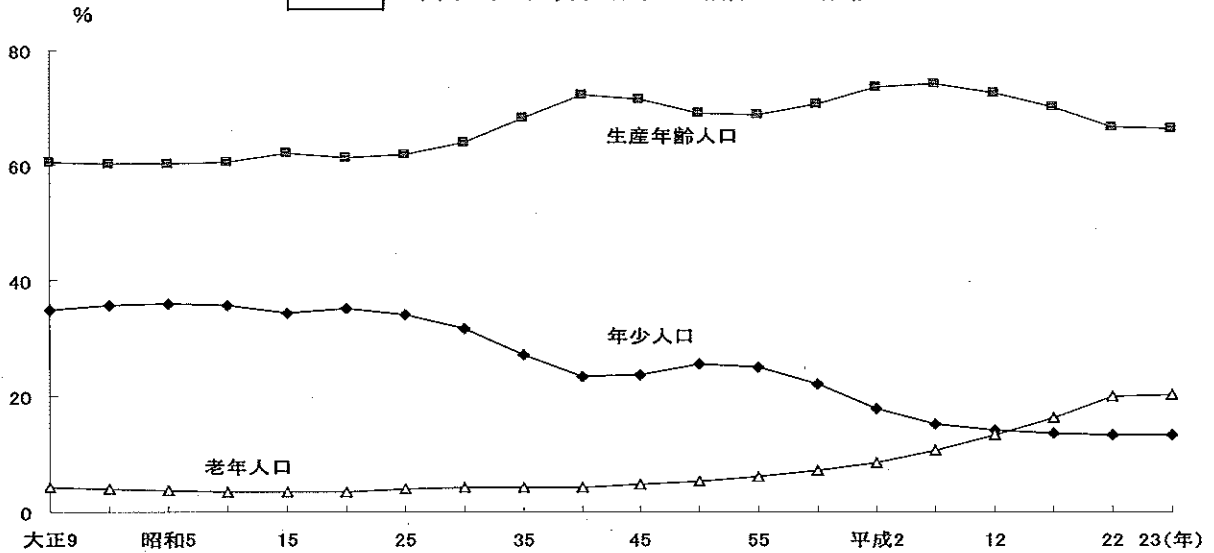
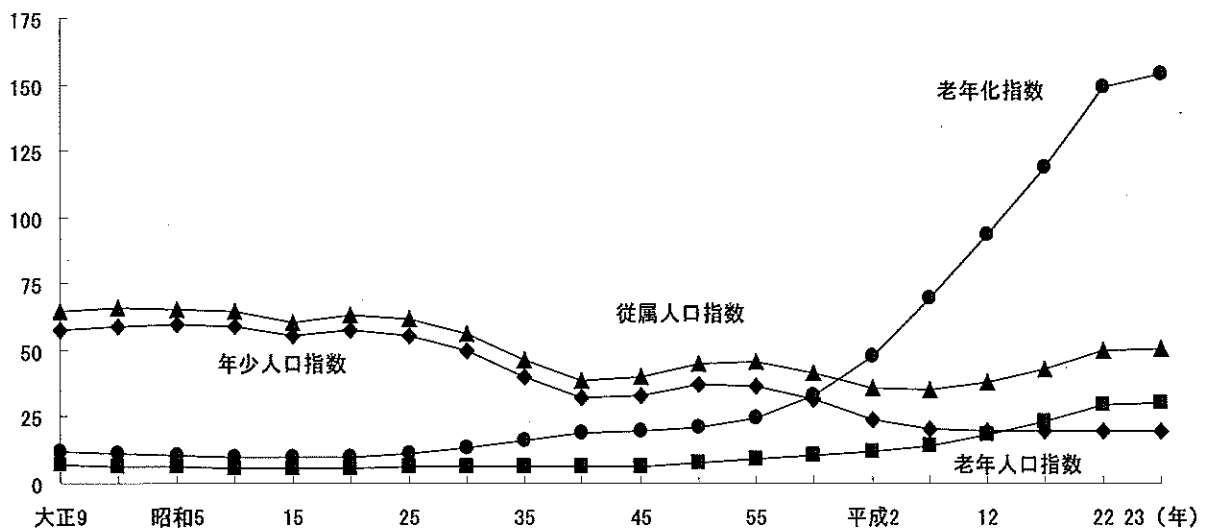


図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移



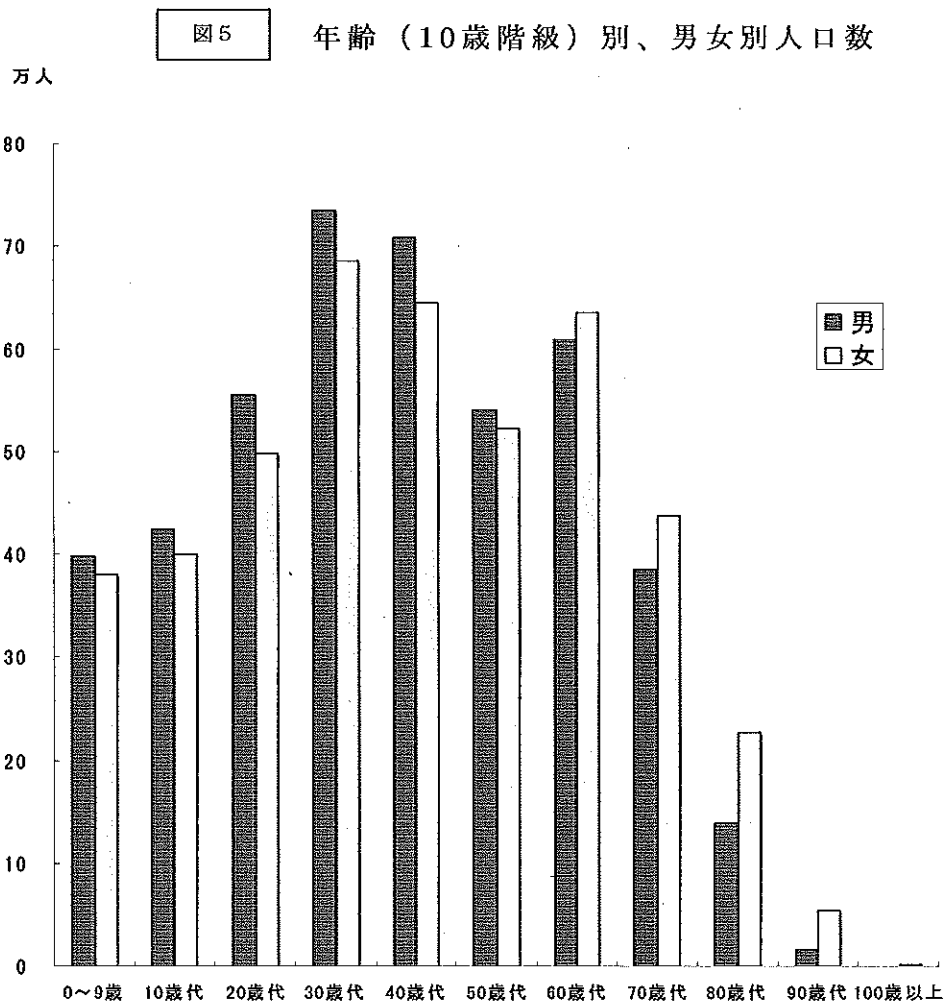
(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。

図4 年齢構造指数の推移



2 年齢（10歳階級）別人口

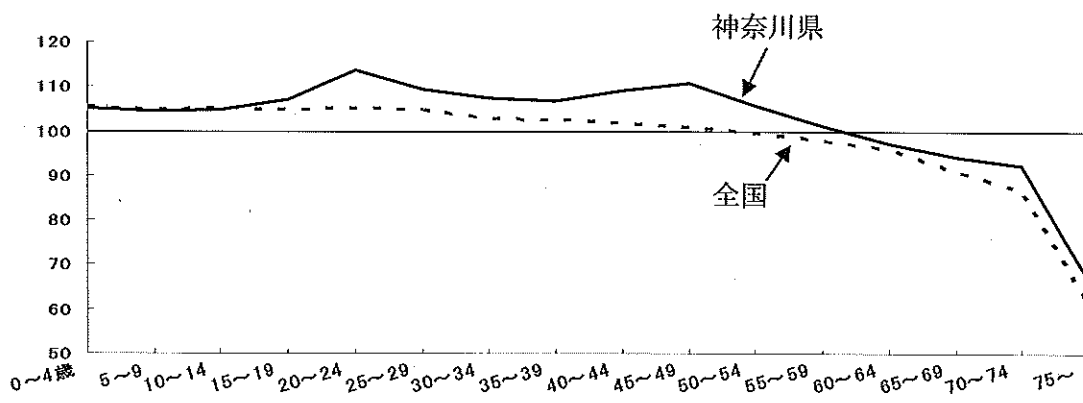
- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、30歳代が142万1169人（人口の15.8%）と最も多く、次いで40歳代の135万3205人（同15.0%）、60歳代の124万2908人（同13.8%）の順となっています。【図5、表3参照】
- (2) 前年調査より0歳代、20歳代、30歳代、50歳代、100歳以上の人口は減少し、その他の階級は増加しています。【表3参照】
- (3) 男女別人口でみると、男性では30歳代が73万4911人（男性に占める割合は16.3%）と最も多く、次いで40歳代の70万8274人（同15.7%）、60歳代の60万8166人（同13.5%）の順となっています。
女性でも30歳代が68万6258人（女性に占める割合は15.3%）と最も多く、次いで40歳代の64万4931人（同14.4%）、60歳代の63万4742人（同14.1%）の順となっています。
【図5、表3参照】



3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が454万4151人、女性が450万6877人で、男性が3万7274人多く、性比（女性100人に対する男性の数）は100.8で、前年調査に比べると0.7ポイント低下していますが、全国平均（94.9）と比べると5.9ポイント上回っています。【表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、20～24歳が113.6、45～49歳が110.6と、110を超えています。
また、これらの年齢階級の性比は、全国平均より著しく高く、20～24歳は8.6ポイント（全国平均105.0）、45～49歳は9.7ポイント（同100.9）、それぞれ全国平均を上回っています。
【図6、表4参照】

図6 年齢（5歳階級）別性比



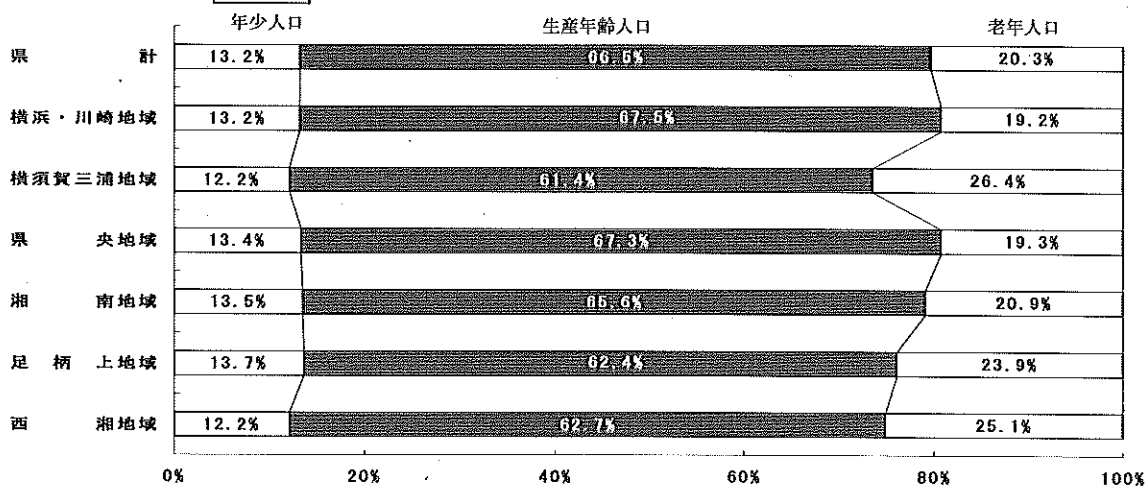
4 平均年齢

- (1) 平均年齢は 43.49 歳で、前年調査に比べ 0.37 歳高くなり、毎年、高年齢化が進んでいます。
【表 5, 7, 11 参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が 42.33 歳(前回調査に比べ 0.33 歳上昇)、女性が 44.65 歳(同 0.40 歳上昇)で、男女を比べると女性が 2.32 歳高くなっています。【表 5, 7, 11 参照】
- (3) 地域別平均年齢は、横須賀三浦地域の 46.85 歳が最も高く、次いで西湘地域の 46.38 歳、足柄上地域の 45.45 歳の順となり、最も低いのは県央地域の 42.88 歳となっています。
【表 7, 11 参照】

5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 県内 6 地域（横浜・川崎、横須賀三浦、県央、湘南、足柄上、西湘）別の年齢（3区分）別人口構成比は、年少人口では足柄上地域が 13.7%で最も高く、次いで湘南地域の 13.5%となっています。最も低いのは、横須賀三浦地域と西湘地域の 12.2%となっています。
【図 7, 表 6, 8, 11 参照】
- (2) 生産年齢人口では、横浜・川崎地域が 67.5%、県央地域が 67.3%、湘南地域が 65.6%の順となっています。【図 7, 表 6, 8, 11 参照】
一方、最も低いのは横須賀三浦地域の 61.4%、次いで足柄上地域の 62.4%となっています。
- (3) 老年人口では、横須賀三浦地域が 26.4%で最も高く、次いで西湘地域の 25.1%、足柄上地域の 23.9%の順となり、最も低いのは横浜・川崎地域の 19.2%となっています。
【図 7, 表 6, 8, 11 参照】

図7 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。